

聖句
他方の仏土に生ずるを得、
専意念仏の因縁を以て、願に随って、
常に仏を見て、永く悪道を離る。

【大乘起信論】

眞生

第79巻477号

<http://canchiin.net>

1・4・7・10月15日発行
【発行所】
眞生同盟本部
〒105-0011
東京都港区芝公園
2-2-13 観智院
【振替】
00160-6-80674
【電話】
03(3431)1450
【Email】
shinsei@canchiin.net
【編集兼発行人】
土屋正道
会費 年額 2,000円
一部 100円

光寿無量

量りなき 寿の御名を たたへては
まづあら玉の 年をことほぐ

弁栄上人

令和二年元旦

眞生同盟主幹 観智院住職 土屋正道
眞生同盟役員・観智院 法類・檀信徒総代 一同

由恵・遙・法道

誕生日

土屋正道

母受難の日

師父光道上人の誕生日は二月二

日です。晩年まで自らお金を出し

て姉妹や子供の家族を招いて誕生

祝いを催していました。なぜ、自

ら誕生会をしていたのでしょうか？

かつて奈良薬師寺の管長高田好
胤さんの講話で、お釈迦様のお言
葉

「もろ人よ忘れる勿れ

わが誕生の日は

母受難の日なりき」を聞いたそ

うです。「眞生」には次のように

書いておられます。

「もろ人よ忘れる勿れ

わが誕生の日は

母受難の日なりき」

に思いを致し、さらに多くの人々、
特に身近な祝って下さる人々に対
して、心から感謝を表す特別な記
念日にしてきました。

とかく、若い時は、誕生日を喜
ぶのに、段々齢を重ねると、感激
も薄れて、まして祝ってくれる人
が身近にいなくなると、段々誕生
祝いをしなくなる傾向があること
は悲しいことです。

むしろ、たった独りになっても、
この人生に生命を授かったことを
自ら喜び、齢老いてますます、喜
寿、傘寿、米寿と老の苦しみが湧
く中に返って生命の尊さを自ら祝
い、人にも祝っていただけの幸せ
を感謝する人生にしたいもので
す。」(平成二十年三月号)

このような理由で、父と母の誕
生日は親族に振る舞う習慣になっ
たのです。私も今年還暦。いつ
までできるかわかりませんが家風

を継いでいきたいと思えます。

第二の誕生

人間には第二の誕生があります。普通赤ちゃんは生まれたばかりでは寝返りすら打てません。お釈迦様は生まれた時、七歩あゆまれ天と地を指差して、「天上天下唯我独尊」とおっしゃられたと言います。

私たち人間も動物の一種として第一の誕生をするわけですが、ただ生きているだけ、長生きするだけでは満足できません。より良く生きたいという欲求が芽生えなくては生きがいを感じることができません。人格の完成を目指し、「いつしか大宇宙の法則に目覚めた方、仏様になりたい」という宗教的な目覚め、眞実生活への入り口に立った時が第二の誕生です。お釈迦さま誕生の七歩歩まれる逸話は、六道輪廻(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上という迷いの世界を巡る)から一歩抜け出す解脱を

表し、この大宇宙の中で、私たち一人一人がかげがえのない尊い存在であることを自覚され、宣言された瞬間を表しています。

釈尊がこの世に姿を表し、仏法を広めて下さったおかげで、私もまた、ただ生きているのではない。「仏の子である」ということをお教えて頂きました。仏子の自覚が生まれた時が第二の誕生です。

念仏申す中に、如来の光明に照らされお守りお育てをいただき、只今から、未来を尽くしてよりよく変わらせていただく。(往生Ⅱ眞生)息が止まる時には、極楽世界に迎えとつて下さり、さらに修行を重ねて、いつしか仏にならせていただく(成仏)ことができるのです。

成仏の暁には、大宇宙のすべての世界の生きとし生けるものを救うお役目を担います。念仏行により「永遠の生命と無限の向上」を頂き、一瞬一瞬生まれ変わらせて頂きましょう。

『心のふるさと』

(昭和三十一年二月発行)

(476号より)

土屋 観道 上人(眞生同盟初代主幹)

第二章 宗教の本尊

一、信仰の対象

信仰の対象を宗教では本尊と申して居ります。

いかなる宗教にも、本尊はあるが、ここでは宇宙最尊の仏を云うのであります。

この天地間に限りなき力と法則と恵みとが充ち満ちていることはすでに述べた所であります。

儒教の天、キリスト教の神、仏教の仏その幾多の宗教にも各々本尊があります。要するに此の力の根源を神格化したものにすぎません。吾々には之を宇宙唯一の絶対神として、認めて居ります。

二、如来の三徳

如来には独尊、総摂、帰趣の三徳があります。独尊とは独一最尊

の義であつて、宇宙唯一の絶対者であります。

一国に於ける君主の如く、絶対者は宇宙に於ける唯一の実在であります。およそ世の中に宇宙の力ほど大なるものはありません。この力は実に万有の生命であります。万有の生命は此の力によって存在するのであります。なお宇宙には実に驚くべき法則が行われて居ります。宇宙の万有は此の法則に従つて動いて居ります。何者もこの法則に逆うことは出来ません。宇宙には斯の如き法則が備つて居る、これを如来の統摂と申します。

なお此の外に宇宙には実に限らない力、如来のみ恵みがすべての上に満ちて居ります。大なる宇宙の力それはあらゆるものを通じて生命となり、法則となつて此の天地の万物に働きかけているのであ

ります。

三、如来の三身

如来に法報応の三身がある。万有の根源であります。万有は此の法身とは宇宙の大生命である。

報身とは宇宙法界の中心に光明を放って衆生を摂取したまう智円満のみ仏であります。所謂信仰の対象独尊の本霊体である。

応身の仏は報身が此の土に出現せられた仏である。衆生救済の為に八相成道して、衆生往生の道を開かれたる仏である。印度の釈尊がそれでありませう。

然し此の三身は本来格別のものではなく、一体の三面であります。

四、大悲の本願

ここに大悲の本願と云うは如来の大悲本願を云うのであります。

宇宙の本仏は万有に対して等しく平等の慈悲を垂れ給うのであるが、病める子供に親の愛が集る様に凡夫の衆生に如来の大悲が強く働くのを云うのであります。此処に私

達は、如来大悲の本願の尊さを仰

ぐのであります。

『法華経』の尊いのは吾々が仏の子であることを、明かにし、

尊が諸仏の中の本仏であることを示めされたにあるが、『大無量寿

選択本願の念仏(一)

（『放送法話集 一紙小消息』より）

土屋 光道上人(眞生同盟二代主幹)

(一)

諸行の中に念仏を用ふるは

かの仏の本願なるが故なり

この御文は、『一紙小消息』の

最も大切な要であります。御承知

の如く「念仏こそ諸行の中から弥

陀が選択された本願の行である」

ということが、法然上人の二十数

年にわたる求道苦もんの末に、善

導和尚の一文に導かれて開眼され

た核心であり、浄土開宗の根本義

であります。更に八十歳に到る全

生涯はまさにこの真理の開顯にか

けられたと云えます。

さて、なぜ阿弥陀仏は諸行の中

から念仏を本願の行としてお選び

経』の尊さは諸仏も見放した、吾々

凡夫をどこまでも救わずに置かぬ

ぞと云う大悲の本願を示された点であります。(続)

に及び難き行であることを実験し

たその悩みの果てに仏様の方から

自分に啓示開顯された真実であった点です。

相対的、有限な凡夫の知恵や努

力をいかに積み重ねても、しよせん絶対の世界、無為真実界に到達

することはかないません。一にか

かって絶対界、阿弥陀仏の側から

の絶対他力に乗托する以外に救わ

れる道はない。ただ仰せのままに

一向に念仏するその中に知らしめ

られるほかない筈です。

ところがなかなかこのところが

わからないのですね。これについ

て、私事にわたって恐縮ですが、

私の亡き父親道が若い頃、師匠の

中島観秀老師(後に百万遍第六十

六世)を困らせた話を懐しく語っ

てくれたのを思い出します。

若い頃、なかなか負けん気の強

い理屈もこねる父が、念仏につい

て老師に、「御老師、念仏はただ

申せば助かるというが、なぜ申す

だけで助かるのか、申さずとも助

「かる道はないものでしょうか」

とお尋ねしたということです。すると老師は、「それはお前、念仏のほかにも助かる道は色々ある。けれども念仏はひとえに弥陀の本願であらだ。また、念仏は諸行の中で功德が最も勝れ、修行も最も易しいものだからだ」と言われる。父が更に、

「でも御老師、念仏せんでも助けるといふ本願はないものではないか」

「それはないな」

「しかし『念仏などせんでもよい、皆このまま助ける』という本願があれば尚よいと思うのですが」

「うん、それには何か訳があるのだらうが、しかし、もうすでに本願を建ててしまったのだから仕方がないじゃないか」

と言われる。それでも父が

「今からでも、本願を建て直したらいかげんでしょう」

と食い下がると、老師が笑って仰るには、

「今さら、それも出来まい。それはお前でもやるんだな。それに俺が思うんだがどうかね、俺には、どうもお前より阿弥陀様の方が智慧が深いように思えるんだが」

と相手にされなかった。そして、しばらく間をおいて、

「それには何か念仏は申さねばならぬ訳があるのだらう。今それが解けぬならば、それは難問として暫くこれを棚に上げておけ、そして念仏をして時々これを下して考えてみるがいい、すると時にはその難問が解けるときがあるぞ」

と申されたということです。

「念仏為先」と法然上人の仰せの如く、念仏を申し申し、念仏の体験の中に申す意味と救われる実感を感じることが何よりも大切だと思います。(続)

形式を超える(『生活線上の宗教』より)

中野 尅子(善英) 上人

仏さまへ詣る時は、お数珠を掛けたり、お袈裟を懸けぬと、どうも参った様な気がせぬものです。

取り分け坊さんとも有ろうものなら、法衣を着たり、お経を読んでもお勤めをせぬと気が咎めていかぬ。

私は昔から形式主義は嫌いだが、それでも今でも毎日アチラコチラの修養会で、数時間づつ念仏します。然し実は念仏してもせぬでもどうでもいい、勿論お数珠やお袈裟、法衣などは有っても無くてもどうでもいい。せぬのでは無いが、形式としてスルのでないから楽です。しても楽だが、せぬでも苦痛でない。

ところが初めの内に、仏さまに詣らぬと苦痛です。坊さんが坊さんの勤めをせぬと苦しい。勿体ない。恰度お百姓が百姓の仕事をし

ずに展覧会を廻って居たり、商人が商人の記事をせずスポーツや釣りをして居ると悪いように思えるが、コレで商人の道を失敗して居らぬ。立派にお百姓の道を磨いて居るといふ自信が有れば、寧ろ大商人、大農業人になって居るのです。

勤めを勤めとして、型通り固くやって居るだけでは、まだ内容が出来て居らぬ事がある。仏さまを遠方に置いてコチラから拝んで居るだけでは、拝んでいても心苦しい。何だか監視せられて居るような、叱られたり咎められるように思われてコワイ。然し仏さまが自分の内へ入って、いつでも自分が如来から逃げも隠れもせぬ、千切れることも離れることも出来ぬ「一体」になって、自分の全生活が、「宗教」で、一寸の間も宗教を忘

れることも出来ぬし、何をやっていても、彼をやって居ても皆念仏であると思はれて来ると、仏を忘れることも、念仏を離れることも出来ませぬ。野原で立小便して居ても、裸で風呂へ這入って居ても袈裟も法衣も着て居る。如来の中で「如来サマ」がして御座るといふ自信があります。クソをして居る時はクソ仏で、余りキレイでない仏だが、これも仏であるといふ自信が出来ます。

商人が商人に縛られず大商人になり、金持ちが「金」から解放せられて大金持にならなければ、金を自由に使いコナスことは出来ませぬ。財産はどれだけ有つても、金に縛られ金にいじめられて居る。形式を出て、自由に形式を駆使する程「内容」―信が明瞭にならねばいかぬ。内の力が強く、内の生命が豊富になって、信が自由に行を生じ、信仰が生活、行動を創作し、信念理想が社会を形成するようになったら本当です。だから

ら宗教が、科学、政治、産業、教育等を生じ、此等一切を統一してよき文化を造って行く、綜合文化の姿が一大宗教の実態です。

宗教は坊さんや牧師がやることであり、数会や寺院の中に在るように思ったら大間違いだ。万人皆宗教人であり、万般是宗教である。資生も産業も是れ「道」であり、

全宇宙、全生物、全存在が既に宗教原理「法」によって造られ、法によって動いて居るのだから、此の生命活動に醒めたら、直ちに私達は大宗教生活にならねばならぬのです。

木馬の信仰

木馬に乗って十里も走つたかと思つたら一寸も動いて居らぬ。同じ処で揺れていたのです。私達の信仰も木馬の信仰が多い。木馬から下りよ。裸足で走れ。宗教を木馬にしている気になって乗っているは三十年たつても進まぬ。

道詠

南無阿弥陀

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀

ほとけに

アマダせらるる

中野善英

光道上人との思い出

川崎市 局 洋次郎

二〇一一年の東日本大震災の起きた年の春に、観智院の夕念仏会に参加したのが真生同盟との最初のご縁になります。実家のお寺が浄土宗で、そのことから法然上人のことが知りたと思うようになり、インターネットなどで調べて夕念仏会を知り、参加しました。

夕念仏は月一回、会社帰りの気分転換みたいに参加していました。私も多くの人が想像するように、仏教とは死後のことや不思議なことと思っていました。死んでからの自身の極楽往生、天国と地獄、亡くなった先祖を大切に祀ること、目には見えない神仏を敬うこと、そして今生きている自分に対して神仏の加護を受け、現世利益を得ること、など自分に都合の良いことばかりを。

あれからもう八年の歳月がたちます。唐沢山修養会他いろいろな真生同盟の行事に参加させていただきました。仏教についてはわからないことがたくさんありますが、真生同盟では現在を大切にしていることを教わつたような気がしております。特に光道上人は尊敬する吉田松陰の話をよくされ、人としての生き方、在り方を説かれており、これこそ正に道德教育だと思いました。いつでしたか唐沢山修養会の時に光道上人の法話で配

られた資料、吉田松陰の言葉「世に身生きて心知する者あり。身亡びて魂存する者あり。心死すれば生くるも益なし。魂存すれば亡ぶるも損なきなり。」この資料今でも大切に持っています。ここには死後の世界も神仏もない、現在を人として生きることを説いていました。

私は単純な生きもので、要は現在を幸せに生きていくことだけを願っています。私は正に凡夫なのでこれからも試練が当然来るでしょう。そんな一人間としての人生を全うすること、そのことを光道上人、眞生同盟から教わったような気がしています。

随分と勝手な解釈をしてしまいました。光道上人亡き後、正道上人を主幹とした眞生同盟もいよいよ平成から新しい時代に突入しようとしています。弁栄上人から続く教え、いや法然上人、善導大師から続くこの教えを未来の人々にも繋げ、人々の心の灯火となり、

多くの方が救われることを願っております。有難うございました。

お詫び

『随喜賛嘆録』原稿として拝受しながら編集のミスで掲載することができませんでした。局洋次郎さまにお詫び申し上げます『眞生』に掲載させて戴きました。

行事報告

観智院秋彼岸会

二〇一九年九月二十一日(土)

午前10時

◇別時念仏

◇法話

観智院所属教師

諸澤正俊上人

午前11時

◇彼岸法要

導師

土屋正道上人

参加者



諸澤上人による法話

東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京
吉	平	大	黒	廣	久	上	佐	谷	谷	土
田	野	橋	田	田	米	田	藤	口	口	屋
晶	能	英	敏	敦	晴	密	利	静	英	正
子	子	和	広	子	彦	記	恵	代	夫	道



本堂での法要

埼	埼	千	千	千	千	東	東	東	東	東	東
玉	玉	葉	葉	葉	葉	京	京	京	京	京	京
酒	蘇	矢	矢	金	江	土	田	諸	林	中	林
井	田	崎	崎	丸	草	屋	中	澤	武	村	真
正	三	恵	勝	昌	喜	由	典	正	則	立	道
空	千	美	彦	弘	美	恵	幸	俊	則	道	也

「京都の中心で

仏の名を称える」

第八回清浄華院

二十四時間不断念仏会

二〇一九年十月二十七日(金) 十三時〜二十八日(土) 十三時にかけて八回目となる「京都の中心で仏の名を称える」清浄華院二十四時間不断念仏会を開催いたしました。

本年の清浄華院不断念仏会は例年の土曜・日曜の日程ではなく、試験的に金曜・土曜での開催となりました。今回は一般の方々が平日の仕事終りに、また僧侶の方々が参加しやすくなるような形を考えて金曜・土曜にとのことでしたが、毎年ご参加くださる方々を混乱させてしまった面もあり、お詫びいたします。

そのような中、来場くださった方々、また念仏中継をしてくださった道友の皆様、また賛同・応援してくださった方々のお陰を持



結願法要

ちまして無事成満となりました。誠にありがとうございました。期間中、会場には一〇〇名以上の方々にご参加下さり、共に念仏行に励み、また内外合せて十三カ所から念仏中継をインターネット配信いたしました。二十四時間不断念仏会は、念仏によって結ばれる和合の集いができることを目指して、今後も続けていくことを念願しております。今後ともご支援の

ほどよろしくお願い申し上げます。

なお、来年は今まで通り土曜・日曜の開催を予定しております。

合掌

念仏中継会場

九月二十七日(金)

◆十三時

ラハイナ浄土院(ハワイ)

原 源照上人

◆十四時

コア浄土院(ハワイ)

石川 広宣上人

◆十五時

念仏行脚

◆十六時

カトマンズ(ネパール)

ミンディラ・シレストタ氏

◆十七時

観智院(港区・東京)

◆十八時

法城寺(碧南市・愛知)

石川 乗願上人

◆十九時

清浄華院・大殿

◆二十三時

ヨーロッパ仏教センター

(フランス)

高僧 光隆上人

九月二十八日(土)

◆五時

浄土別院(ハワイ)

中野寛淳上人

◆八時

念仏行脚

◆九時

長昌寺(大分)

今井 英之上人

◆十時

観智院(港区・東京)

◆十一時

サンアントニオ(アメリカ)

エリック・コーベン氏



カトマンズ シレストタさん



不断念仏会参加者と共に

念仏フェスティバル

会場 増上寺

二〇一九年 十月十一日(金)

二十日(日)

二〇一九年は、増上寺開山聖聰上人の師僧であり浄土宗七祖・聖阿上人六〇〇回忌、増上寺中興・観智国師存応上人四〇〇回忌、また増上寺山内多聞院に起居された近代の高徳、山崎弁栄上人一〇〇回忌にあたり各地で法要が営まれました。この勝縁に、眞生同盟と弁栄上人讃仰会共催のもと、実行委員会を組織し、「念仏フェスティバル」と題しまして、増上寺で十日十夜の報恩念仏会を開催いたしました。

本行事では少しでも多くの方々が念仏に興味を持っていただくために、写仏行脚・演奏会・講演会・落語会・ダンスなども開催し、来場者が楽しみながら念仏を称えられるように様々な企画したところ、音楽家、研究者、落語家、ダンサー

といった多くの方々が賛同・ご協力くださり、また檀信徒や一般の方々にはボランティアスタッフとして行事の活動のサポートしていただいたことによって、無事成満を迎えられました。

また期間中は四〇〇名以上の方々がご来場になり、一緒に念仏をお称えいたしました。

皆様に心より感謝申し上げます。



圓光大師堂での念仏会



箏奏者 菊優紹古さん 地唄三味線奏者 菊重精峰さん



ロックバンド沙門



大正大学大学院 安憲永さん



弁栄上人書画研究 金田昭教師



尺八説法 矢野司空師



尺八奏者 中村仁樹さん 箏奏者 大川義秋さん

部のイベントを掲載いたしました。

薩摩琵琶奏者 長須与佳さん



慈雲閣での念仏会

第五十七回 眞生同盟本部大会 第二回 観智院文化祭

(十九日開催)

二〇一九年 十月十八日(金)

二十日(日)

令和元年の眞生同盟本部大会並びに観智院・秋の文化祭は念仏フェスティバルとの併修となりました。

十八日(金)は開白法要後、念仏フェスティバルの念仏会及び写仏・落語会に参加、十九日(土)は文化祭での交流を行い、二十日(日)の結願日は増上寺の朝勤行に参列後、大殿で「眞生一味大念仏」を厳修、その後、円光大師堂にて光道上人三回忌念に出版した『随喜賛嘆録』を拝読しながら座談会を行い、光道上人を偲びました。

観智院文化祭では、普段から観智院・多聞院にて活動されている、

表千家茶道教室、そば打ち道場、書道教室、タロット占い、鳳友会の和楽器演奏会の皆様にご協力を賜り、茶席、そば打ちの実演、書道指導、占いカウンセリング、和楽器演奏会を来場の方々に体験していただきました。

また浄土宗僧侶でジャズシンガーの花房尚美さんが、ギターリストとのGOHさんと共にジャズのライブパフォーマンスを、またフラダンスの井畑京子さんがモア



座談



井畑京子さんとモアニケアラフラシスターズ

ニケアラフラシスターズを率いてフラダンスショーや体験コーナーを開催してくださり、充実した文化行事となりました。

心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

眞生同盟本部大会参加者

- 東 京 土 屋 正 道
- 兵 庫 山 岡 和 知
- 千 葉 服 部 道 子
- 東 京 土 屋 正 道
- 兵 庫 山 岡 和 知
- 千 葉 服 部 道 子
- 東 京 土 屋 正 道
- 兵 庫 山 岡 和 知
- 千 葉 服 部 道 子



増上寺大殿前

- 埼 玉 蘇 田 三 千 穂
- 神 奈 川 川 野 誠
- 東 京 佐 藤 利 恵 子
- 神 奈 川 局 洋 次 郎
- 東 京 小 島 清 一
- 大 阪 森 島 米 史 郎
- 東 京 諸 澤 正 俊
- 東 京 土 屋 由 恵
- 東 京 田 中 典 幸
- 東 京 藤 澤 裕 子
- 埼 玉 酒 井 正 空

行事案内

第二十八回 一千礼拝行

二〇二〇年二月十五日(土)
(観智院本堂)

九時三〇分 集合
九時五〇分

オリエンテーション

一〇時一五分 二百礼拝

一一時三五分 食事、休憩

一二時三五分

二百礼拝、少休憩

一四時三〇分

二百礼拝、小休憩

一六時二〇分 二百礼拝

一七時四〇分 食事、休憩

一八時四〇分 二百礼拝、回向

二〇時三〇分 解散

会費 四〇〇〇円

途中の参加、退出も自由、椅子

二月八日までに郵送、メール、F

AXでお申し込みください。

春彼岸法要

二〇二〇年三月二十一日(土)

午前十時

観智院本堂にて「眞生光明阿弥陀仏」の御前で念仏申し、物故者

追善増長菩提、被災地復興祈願の

回向のための春彼岸法要を厳修い

たします。

◎お塔婆回向

事前にお申込の檀信徒、および

参詣の眞生会員の方々には、当日、

「□□家先祖代々春彼岸追善供養

施主〇〇〇〇」の塔婆を準備しま

す。特にお彼岸に塔婆回向をご希

望の方は、お戒名と施主名を記し

てお申し込みください。観智院墓

地にお墓がない方は、ご本尊前で

祈願し、共同墓地にお供えします。

お塔婆回向 冥加料 一基につ

き三千円以上。墓地管理料一万二

千円です。

☆お申し込みは郵送、メール、

FAXにて三月十六日までに

お願いいたします。

松禅院

中野上人追善念仏会

先師中野善英上人は、「大念仏

でどんどん進め!」とお示し下さ

いました。

我が信仰が停滞していないか省

みて、「如来のみが現れることを」

祈りましょう。

御登嶺をお待ちしております。

松禅院念仏会世話人一同

日時：四月十二日(日) 十三時

十三日(月) 十三時

道場：比叡山飯室谷 松禅院

〒520-1116

滋賀県大津町坂本本町4239

TEL 077-579-4840

(会期中)

JR湖西線 比叡山坂本駅より

タクシー 不動堂隣り

会費：一泊三千円 日帰り千円

土屋光道上人三回忌追悼集

『随喜賛嘆録』

―善き人との邂逅―

昨年、観智院開創四三〇年を迎え
ました。三十年前、観智院開創

四〇〇年、眞生同盟初代主幹・土

屋観道上人二十三回忌に『随喜賛

嘆録』を発刊しましたが、この度、

眞生同盟前主幹・光道上人三回忌

にあたり、再び『随喜賛嘆録』を

刊行することになりました。

光道上人の信仰、行状、出逢い

にとどまらず、念仏とのご縁、道

友とのエピソードなど、予想を上

回る多くの方々に原稿をお寄せい

ただき、豊かな内容になりました。

一冊3500円にて販売してお

りますので、ご希望の方はご連絡

ください。

各行事・書籍購入などの申込み先
FAX 〇三―三四三―一七八〇七
メール shinsei@canchin.net

2020年 真生会・観智院・多聞院予定

真生会東京本部例会 毎月4日・19日 11時～15時

(19日は13時半より「般若心経」写経または法話)

夕念仏の会 …………… 毎月第2金曜日 19時～20時半

松禅院 念仏会 …………… 毎月第1土曜・日曜 13時～ 比叡山飯室谷 (宿泊可)

書道教室 …………… 毎月第2・第4水曜 17時～ (8月はお休み、12月は第1・第3)

茶道教室 (表千家流) …… 毎月第2・第4土曜 10時から18時

そば打ち道場 …………… 毎月第4土曜 10時～

仏教音楽教室 …………… 毎月1回 (あるいは2回) 木曜13時

多聞院 老僧と若僧の念仏会 …… 毎月第2・4金曜日 13時～15時

多聞院 不断念仏会 …… 毎月第4金曜日 18時～21時

多聞院 お寺の漫画図書館 …… 毎週水曜17時～20時、毎週土曜10時～17時

1月4日⊕	修正会、新年会	11時～15時
2月1日⊕	鶴見念仏会 (西浦邸)	11時～15時
2月15日⊕	第27回 一千礼拝行	9時半～
3月6日☉	東京教区詠唱奉納大会	13時～
3月15日☉	音古の風 (和楽器コンサート)	
3月21日⊕	春彼岸会 (20日住職増上寺法話・19日例会休み)	10時～
4月3日☉	増上寺御忌詠唱奉納大会	10時～
4月12日☉～13日☉	中野善英上人追善 松禅院念仏会	13時～
5月2日⊕～3日☉	第15回 増上寺24時間不断念仏会	13時～
5月26日☉～27日☉	柏崎修養会 (未定)	
6月12日☉～13日⊕	六時礼讃 別時念仏会・礼拝・写経	18時～
7月10日☉～16日☉	お盆棚経	
8月1日⊕～5日☉	唐沢山阿弥陀寺念仏修養会 (4日例会休み)	14時～
9月1日☉～3日☉	比叡山松禅院仲秋念仏大会	13時～
9月19日⊕	秋彼岸会念仏法要	10時～
9月26日⊕～27日☉	第9回 清浄華院24時間不断念仏会 (未定)	13時～
10月2日☉～3日⊕	鎌倉大仏さま月夜の別時會	18時～
10月31日⊕～11月1日☉	伊勢市慶蔵院大念仏会	9時～
11月19日☉～21日⊕	真生同盟本部大会	13時～
11月20日☉	観智院秋の文化祭	10時～
12月11日☉	タラレバ供養・ポーネンブツ会 (夕念仏)	19時～
12月19日⊕	真生本部例会納め会	11時～